

実践報告

児童が自ら創造しようとする図画工作科の授業づくり —図画工作科と社会科の教科等横断的な学習—

島崎 智朗*

Creating lessons in the art and craft that children try to create by themselves - Cross-curricular learning of art and craft and social studies -

Tomoaki SHIMAZAKI

【要約】

児童が自ら創造しようとする図画工作科の授業づくりを目指し、図画工作科の学びと他教科等の学びを効果的に関連付けることで、児童が生活や社会とのつながりを実感することができる教科等横断的な題材づくりを行う。

【キーワード】 教科等横断的な学習, デジタルポートフォリオ, 造形遊び

【概要】

「自ら創造しようとする」とは、児童が自分にとっての意味や価値をつくりだし、つくりだした意味や価値を生活や社会につなげていこうとすることである。そのために、児童が、身近な生活とのつながりを実感することができる題材づくりを行う。教科等横断的な学習の視点を取り入れることで、他教科等の学びと図画工作科の学びを関連付け、児童が他教科等の学びの中で抱く造形活動への思いを図画工作科の題材につなげるようにする。そうすることで、児童は自分の思いを生かしてより豊かに表現し、生活とのつながりを実感することができる。活動中においては、児童が、つくりだした意味や価値を児童が自覚するためにデジタルポートフォリオ（以下、図工アルバム）を中心とした手立ての工夫を行う。連続した造形活動の中で、児童はその瞬間瞬間に造形的な見方・考え方を働かせながら、意味や価値をつくりだしている。しかし、活動や表現が刻々と変化していくために、自分自身がつくりだした意味や価値を自覚できていないことが多い。そこで、その瞬間に自分の視点から対象や事象を捉えることができるというタブレット端末のよさを生かしたデジタルポートフォリオの取組により、児童が対象や事象と向き合う場面を設定し、つくりだした意味や価値を自覚することができるようにする。

第3学年2組 図画工作科学習指導案

【日時】令和5年7月24日(月)10:20～11:05 【場所】図工室 【指導者】島崎 智朗

本授業の主張点

社会科と関連付けた題材により、材料である木切れへの思いが高まり、生活や社会とのつながりを実感することができるようにする。また、「図工アルバム」を活用することで、作りだした意味や価値を自覚する児童の姿を目指す。

1 題材名 この木なんの木 気になる木（造形遊び）

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、児童が材料や場所を基に試行錯誤し、多様な造形的な活動をつくりだしていく造形遊びの題材である。

社会科「工場ではたらく人びとの仕事」において、児童は、地域の産業である諸富家具について学習をしている。そこでは、生産に携わる人々の様子や願いを知り、自分たちの生活との関わりを実感している。また、様々な製品に生まれ変わる木材の魅力を感じた児童も多い。造形遊びは、材料や場所を基にした活動であることから、児童が材料への思いをもつことが大切である。そこで、この社会科の学びを図画工作科の題材とつなぐことで、児童が自分の思いをより豊かに表現することができる。また、本題材で抱いた児童の思いを再び社会科の学びにつなぐことにより、相互に学びが深まることが期待できる。

本題材の主材料は木切れである。この木切れは、見学に行った諸富家具の工場から譲り受けたものであり、形や大きさ、色が様々である。木切れは、並べる、積むなどの扱いが容易であり、組み合わせることで形や色の変化を楽しむことができる材料である。児童は、木切れを手に取り、並べたり積んだりしながら手や体全体の感覚を存分に働かせ、多様な造形的な活動をつくりだしていただろう。文脈のある学びの中で、「この形や色が気に入っている」「自分らしく活動できている」と作りだした意味や価値を自覚することで、児童は、生活や社会とのつながりを実感することができる。また、中学年であるこの時期に、主体的に形や色に関わる経験を積み重ねることは、中学校が目指している形や色が感情にもたらす効果の理解や、形や色の特徴から心豊かに表現する力の育成へとつながる。

(2) 児童について

5月実施のアンケートの結果、「図工の学習は好きですか」という項目に対しては、34名中、好き32名、どちらかといえば好き2名、どちらかといえば嫌い0名、嫌い0名であった。一方、「図工で学習したことが自分の生活に役立っていると思いますか」という項目に対しては、そう思う15名、どちらかといえばそう思う16名、どちらかといえばそう思わない2名、そう思わない1名であった。図画工作科の学習が好きであるという児童においても、生活に役立っているという点においては自信をもって答えることができていることが分かる。自由記述を見ても、「絵が上手になる」「妹にプレゼントができる」など、造形活動を作品中心に捉えている児童が十数名いる。本題材では、文脈のある学びの中で自分がつくりだした意味や価値を自覚し、生活や社会とのつながりを実感することができるようにしたい。

これまで児童は、特別活動や理科と関連付けた図画工作科の題材に取り組んできている。その中でも、5月実践「学級目標をつくろう（絵に表す）」は、学級会で決定した学級目標のイメージを図画工作科の活動で表現したものであり、児童一人一人の思いを基にした活動となった。

(3) 指導について

1時目は、児童が材料や場所からイメージを広げ、多様な造形的な活動をつくりだすことができるようにしたい。そのために二つのことに留意する。一つ目は、材料の工夫である。本題材で使用する木切れは、社会科「工場ではたらく人びとの仕事」で見学に行った諸富家具の工場から譲り受けたものである。多様な形や色があるという魅力に加え、実際に木材が加工されていく製造工程を見たり、そこで働く人々のものづくりに対する思いに触れたりした児童にとって、この材料はかけがえのないものになっていると言える。この材料を大量に準備しておくことで、活動意欲が一気に高まるようにする。二つ目は、場の設定である。児童が自由に活動するためには広い場所が必要であるが、友達の活動にも触れながら発想を膨らませることができるようにしたい。そこで、図工室と隣接する屋外に活動場所を設定する。児童は、二つの場所を行き来しながら自然と友達の活動に触れ、イメージを広げることができるだろう。図工室は平らな場所が多く、屋外は階段などの変化のある場所が多い。場所との組み合わせによる活動の違いにも目を向けることができるようにしたい。また、場に変化を加えるために、高さ30 cm程の丸太を複数準備する。丸太は、児童が自由に移動させることで場をつくりかえることができる。

さらに、「この形や色が気に入っている」「自分らしく活動できている」と思う場面では、「図工アルバム」に写真や動画を記録することができるようにする。刻々と変化する活動の中でも、その瞬間瞬間に自分なりの造形的な見方を働かせて対象や事象を捉えることで、つくりだした意味や価値の自覚につながると考える。

2時目は、様々なことを試しながらイメージを広げると共に、多様な造形的な活動を比較・選択しながらどのように活動するかを考えることができるようにしたい。導入では、1時目の活動を振り返り、自他の多様な活動に触れることができるようにする。途中で活動が変わった児童や、場所との組み合わせを工夫している児童、友達と一緒に活動している児童など、様々な児童の姿を取り上げるようにすることでイメージの広がりをおねらう。活動中は、児童の様子と「図工アルバム」の記録から、児童が働かせている造形的な見方・考え方を捉え、一人一人に応じた手立てをとるようにする。特に、共感や称賛の声掛けを大切にすることで、つくりだした意味や価値の自覚を確かなものにしたい。終末では、友達と自由に話しながら活動を振り返ることで、自他の活動を認め合うことができるようにする。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

木切れを並べたり積んだりしながら様々なことを試し、形や色などの感じや場所との組み合わせから造形的な活動を思い付きながら、どのように活動するかについて考えることができる。

(2) 評価規準

ア 木切れを並べたり重ねたりする感覚や行為を通して形や色の感じが分かり、手や体全体を十分に働かせながら工夫して活動している。 【知・技】

イ 形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージを広げながら造形的な活動を思い付き、どのように活動するかについて考えている。 【思・判・表】

ウ つくりだす喜びを味わい、様々な形や色の木切れを使って、思い付いたことを試す活動に取り組もうとしている。 【主】

4 題材の指導計画（全2時間 本時2/2時間目）

時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
1	<p>○木切れを並べたり積んだりしながら、材料の特性に気付く。</p> <p>○並べ方や積み方を試したり、様々な場所で活動したりする。</p> <p>○タブレット端末を使い、「好きな形や色が見つかった」と思う活動を「図工アルバム」に記録する。</p>	<p>・児童が造形的な見方・考え方を働かせながら活動し、多様な造形的な活動が生まれるように、材料と場を工夫する。</p> <p>・「図工アルバム」の作成を通して、児童が自分なりの見方で対象を捉え、作りだした意味や価値を自覚することができるようにする。</p> <p>・児童が造形的な見方・考え方を働かせ、作りだした意味や価値を自覚できるように、児童の思いに共感したり、活動を称賛したりする。</p>	<p>◆木切れを並べたり重ねたりする感覚や行為を通して形や色の感じが分かり、手や体全体を十分に働かせながら工夫して活動している。</p> <p>【知・技】</p> <p>◆様々に活動を試しながら、進んで活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主】</p>
2 本時	<p>○様々なことを試しながら、イメージを広げたり、自他の多様な造形的な活動を比較、選択したりしながら活動する。</p> <p>○気付いたことや工夫したことを友達と交流したり、自他の「図工アルバム」を見たりしながら活動を振り返る。</p>	<p>・事前に「図工アルバム」を確認しておくことで、材料の提示や児童同士をつなぐなど、一人一人の児童に合わせた手立てをとるようにする。</p> <p>・児童が活動を広げ、造形的な見方・考え方をより働かせることができるように、必要に応じて場を変化させたり材料を追加したりする。</p> <p>・気付きや工夫したところを友達と交流したり、「図工アルバム」を振り返ったりすることで、作りだした意味や価値を自覚することができるようにする。</p>	<p>◆形や色の感じや場所との組み合わせから自分のイメージをもち、自他の造形的な活動を比較・選択しながら、活動を工夫することができる。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◆思い付いたことを試す活動に進んで取り組もうとしている。 【主】</p>

5 本時の指導（2/2）

(1) 指導目標

造形的な見方で対象や事象を捉え、多様な造形的な活動を比較・選択しながら、どのように活動するかについて考えることができる。

(2) 評価規準

イ 形や色の感じや場所との組み合わせから自分のイメージをもち、自他の造形的な活動を比較・選択しながら、活動を工夫することができる。 【思・判・表】

(3) 「見方・考え方」を働かせるための手立て

本時の授業における「造形的な見方」を働かせている姿は「造形的な視点である、形や色などの感じで対象や事象を捉えること」である。また、「造形的な考え方」を働かせている姿は「形や色、場所の組み合わせからイメージを広げたり、自他の多様な造形的な活動を比較・選択したりすること」である。「造形的な見方・考え方」を働かせるための手立てをとることで、児童が作りだした意味や価値を自覚することができるようにする。

- ・ 活動を「図工アルバム」に記録することで、児童自身が造形的な視点から対象や事象を捉えることができるようにする。
- ・ 活動の様子や「図工アルバム」の記録から、児童が造形的な見方・考え方を働かせている場面を適切に見取り、共感や称賛の声掛けをする。

(4) 展開 (波線部は「見方・考え方を働かせる手立て」に関わる働きかけ)

学習活動と児童の反応 ([])	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時を振り返り、本時のめあてをもつ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は木切れをたくさん積んだよ。それが家に見えてきたよ。 ・同じ色の木を集めて並べているよ。 ・外の階段を使うと、並べ方が面白くなったよ。 ・ぼくは、〇〇さんと一緒に活動しているよ。 	<p>1-(1) 児童が活動のイメージを広げることができるよう、場所との組み合わせに気付いている児童や、友達と一緒に活動している児童を紹介する。</p> <p>1-(2) 友達の活動からイメージを広げることができるよう、児童が記録した「図工アルバム」の写真を提示する。</p>
<p>場所のよさや、形や色の組み合わせを考えながら活動を工夫しよう</p>	
<p>2 様々に試しながら活動する。(35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっといろいろな場所で試してみよう。外の階段を利用すると違った感じにできたようだ。 ・並べたり積んだりするのも、場所を変えるだけでいろいろな工夫ができるよ。 ・木の大きさを変えたり、色を揃えたりしているいろいろ試してみよう。 ・丸太の場所を変えてみると面白そうだぞ。 ・もっとたくさんの木切れを使いたいな。 ・友達と一緒にやってみよう。 ・友達と一緒にやるとアイデアが広がるね。 ・〇〇さんも私たちのとつなげてみようよ。 ・いい感じになったよ。写真を撮って「図工アルバム」に残しておこう。 ・図工室が木の世界みたいになったよ。 	<p>2-(1) 事前に「図工アルバム」の記録を確認しておくことで、必要な材料を提示したり児童同士をつないだりするなど、その児童に合わせた手立てをとることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆ 材料や場所の組み合わせを試し、活動を工夫しようとしているか。(活動の様子) 【思・判・表】 B 材料の形や色、場所との組み合わせを様々に試している。 C→ 友達の活動に目を向けさせたり、材料や場所を紹介したりする。</p> </div> <p>2-(2) 「図工アルバム」にお気に入りの活動を記録することで、造形的な見方を働かせて対象や事象を捉え、作りだした意味や価値を自覚することができるようにする。</p> <p>2-(3) 児童の活動を見取り、共感や称賛の声掛けをすることで、作りだした意味や価値の自覚を確かなものにする。</p>
<p>3 学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動することができたよ。 ・木切れだけでも、形や色、場所を工夫しているいろいろなことができたよ。 ・やっぱり木はいいなあ。諸富家具のことをもっと詳しく知りたくなったよ。 	<p>3 気付いたことや工夫したところを友達と交流したり、自他の「図工アルバム」の記録を振り返ったりすることで、本時の活動への達成感を得ることができるようにする。また、自他の多様な活動に触れることで、形や色のよさや面白さを感じるができるようにする。</p>

6 指導の実際

(1) 生活や社会とのつながりを実感することができる教科横断的な題材づくり

造形遊びは、材料や場所を基にした活動である。児童は、材料への思いをもつことで、生き生きと自分の思いを表現することができる。本題材では、社会科「工場ではたらく人々の仕事」の学習と関連付けることにより、児童が材料への思いを高め、より豊かに表現することができると考えた(図1)。また、本題材で抱いた児童の思いを再び社会科の学びにつなぐことにより、相互に学びが深まることが期待できる。

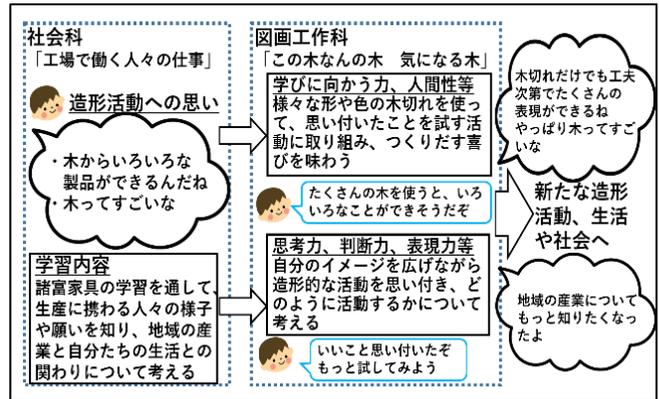


図1 社会科と関連付けた題材

社会科の学習で、児童は、地域の産業である

諸富家具について学習した。児童は、諸富家具という言葉から、様々に調べていきたいことを思い付き、一人一人がめあてをもって学習に取り組んだ(図2)。工場見学では、自分が調べたいことに加えて、生産に携わる人々の仕事ぶりを目の当たりにし、その様子や生産者の願いを知ることができた。また、製造工程を見学することで、一本の丸太から様々な製品に生まれ変わる木材の魅力を感じた児童も多い(図3)。これらの学習を通して、木材が児童にとって身近な材料となり、木材への興味が高まったところで本題材を設定した。



図2 社会科の単元導入時の板書

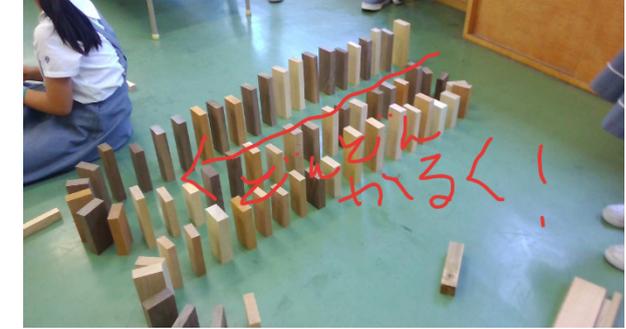


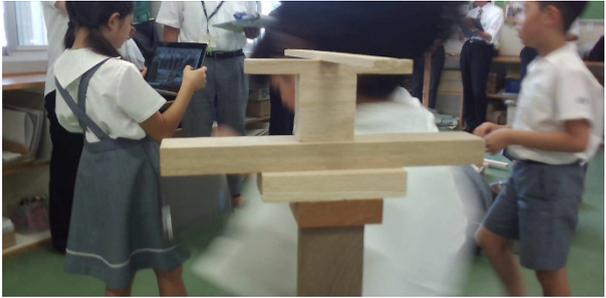
図3 諸富家具工場見学の様子

(2) つくりだした意味や価値を自覚するデジタルポートフォリオ（「図工アルバム」）の取組

造形遊びでは、児童の活動が刻一刻と変化していく。児童もそのような造形遊びの特性を理解しており、「図工アルバム」があることで、児童は安心して次の活動を展開することができる。また、デジタルポートフォリオは教師の見取りにも有効に働くため、活動中や、活動後の児童の支援に生かすことができた。

表1 図工アルバムの記録

児童	図工アルバムの記録	
A児		
		
<p>A児は、活動の変化やその時々で工夫したことを、「図工アルバム」に細かく記録している。たくさんの木切れに触れることで、木切れの「重さ」の違いに気付き、そのことを友達と共有しながら、活動に生かしていることが分かる。初めは木切れを並べる活動をしているが、その活動に満足すると、積み上げる活動へと活動が変化している。どちらの活動においても、「重さ」という造形的な視点で材料を捉え、活動が深まっていることが分かる。</p>		
B児		<p>工夫したところ 1番下を太くして、 たくさんのせれるようにした!</p>
<p>B児は、木切れを積み重ねて活動していた。表現をただ記録するだけでなく、自分なりに撮影する角度を考え、少し下の角度から写真を撮っていることが分かる。その思いは、写真と併せて作成しているスライドの文章にも表れている。この文章の記述からも、教師はB児が活動中に働かせていた造形的な見方・考え方を見取ることができる。</p>		

C 児		
<p>C児は、活動中に生まれた表現を、2つの視点から写真に記録している。左は表現全体を、右は表現の上部に視点を絞っていることが分かる。C児にとっては、この両方に思いがあったことが「図工アルバム」の記録から見取ることができる。活動後に児童に「なぜ、2つの写真を記録したのか」と問うたところ、「遠くから見たら塔みたいに見えるし、上のところはバランスを工夫してつくったから」と答えていた。</p>		
D 児	 <p>お城タワー！バランスヤバ！作るのむずかった！屋根も付けたよ！</p>	 <p>自分の部屋作ってみた！</p>
<p>D児は、活動中の思いを写真と併せて記述している。特に造形遊びにおいては、活動が刻一刻と変化していくため、自分がその時に抱いていた思いや考えを後から思い出すことが難しい。また、児童が様々に活動しているため、教師が一人一人の児童の思いを見取ることも困難である。図工アルバムを活用することで、児童は、その時に自分が抱いた思いや考えを想起することができ、教師もその時の児童の思いを見取る手立てとなる。</p>		

【まとめ】

国立教育政策研究所や地方公共団体等が行った調査結果ⁱをみると、「図画工作科の学習が好きだ」等の教科の好き嫌いを問う項目に肯定的な回答をした児童の割合は約9割と高く、教科の順位も上位である。それに対して、「図画工作の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」等の生活や将来と関わる項目では肯定的な回答の割合が約7割に減少し、教科の順位も下位となっている。また、いずれの項目においても否定的な回答の割合が高学年になるにつれて高くなっている。これらの要因として、「図画工作科は作品をつくらせる教科である」とする教科観からの脱却が未だになされていない現状が考えられる。図画工作科が目指すのは、児童が自分の表現を追求し、作りだす喜びを味わうことである。活動の過程で作りだした意味や価値の大切さを児童が自覚し、学習したことと自分の生活がつながっているという実感を持てるような指導の改善・充実が今求められているのである。

本実践では、教科等横断的な学習の視点を取り入れ、児童が身近な生活とのつながりを実感できること題材づくりを行った。活動中の児童の姿や「図工アルバム」の記録から、児童が作りだした造形的な意味や価値を自覚し、図画工作科と社会科とのつながりを意識していることがわかる。今後も、図画工作科と他教科等の学びを効果的に関連付け、児童が生活とのつながりを実感し、自ら創造する図画工作科の授業づくりを目指していきたい。

i 国立教育政策研究所（2017）「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」、ベネッセ教育総合研究所（2017）「第5回学習基本調査 DATABASE」、宇都宮教育委員会（2022）「学習内容定着度調査 学習と生活についてのアンケート実施結果報告書」